



はのうら子どもフェスティバル(羽ノ浦町)

どんど鼓&羽ノ浦伝統文化子ども和太鼓教室



徳島インディゴウズ



リコ・レファ・マモのフラダンス



はのうら新体操クラブ



奴連による阿波踊り

子どもたちに、地域の人との触れ合いを通して夏休みの思い出を作ってもらおうと、毎年8月下旬の日曜日に「はのうら子どもフェスティバル」が羽ノ浦総合国民体育館で開催されている。多彩な催し物が繰り広げられ、毎回1000人を超す親子連れなどにぎわっている。

会場には、各種団体による親子木工教室やエコバッグ作りなど体験コーナーが多数設けられている。子どもたちは思い思いに遊びやものづくりを楽しんでいるようす。また、ステージでは、徳島インディゴウズのマーチングがフェスティバル開催ののりを上げ、和太鼓の演奏、フラダンス、新体操の演技、羽ノ浦音頭などが披露されフェスティバルを盛り上げる。そして、地元の奴連の阿波踊りで会場の熱気は最高潮に達する。

フェスティバルは、昭和55年から途切れることなく行われ、今年で38回目を数えた。各種団体で組織する実行委員会運営し、羽ノ浦公民館が事務局となる。初開催から携わる同公民館長の池田重政さんは、「国連が昭和54年を『国際児童

年』と決めました。日本の小さな町でも何かやってみよう」と当時を振り返る。「春日野団地ができるなど町の人口が急激に増えた頃でもあり、3世代間の交流や、新旧住民の融和につながればとの思いでした」と語る。フェスティバルは、県内子ども向けイベントのさきがけとなった。

羽ノ浦町は、住みよい町として人気が高い。交通アクセスや医療機関などの充実などもより、子どもフェスティバル開催などを通じた積極的な子育て支援や人の輪づくりが町にまとまりを生み、安心して生活できる理由の一つだと感じた。



楽しい体験コーナーがいっぱい



地域の人と触れ合う